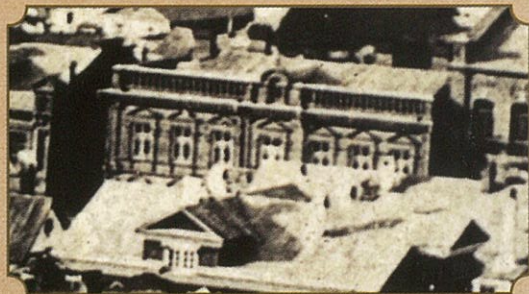




15 女優松井須磨子が出演したプーシキン劇場  
プーシキン通り27番(地図F3)

有名な演出家である島村抱月と芸術座で活躍していた松井須磨子(1886~1919年)は、1915年12月21日にウラジオストクを訪れ、在留邦人及びロシア人観衆を前にプーシキン劇場でロシアの劇団との合同公演を行った。この公演で松井須磨子は島村抱月の演出によるレフ・トルストイ「復活」の劇中歌として作詞作曲された「カチューシャの唄」を日本語で歌い、大好評を博した。松井須磨子の歌う「カチューシャの唄」は、当時日本で大流行し、レコード2万枚が売られたという。



作曲家・入野義朗の生家  
クラスノズナメンヌイ横町5番(地図C3)

16

入野義朗は1921年11月13日にこの建物で生まれた。彼の父入野寅蔵は鈴木商店の支店長としてこの建物に住んでいた。寅蔵は1923年から浦塩日本居留民会会頭を務めていた。1927年に同商店が倒産したため、一家は福井県への帰国を余儀なくされた。1941年-1943年入野は東京大学経済学部で学び、同時に諸井三郎から作曲を学んだ。1946年若い作曲家のグループ「新声会」を創立。1949年からは東京銀行を辞めて東京音楽書院の音楽編集者を務めながら作曲活動に入った。1952年から桐朋学園で教鞭をとり、1960年~1970年には学園理事及び桐朋学園大学音楽学部教務部長を務めた。1957年に「20世紀音楽研究所」の創立者の一人となり、毎年行われる各種現代音楽祭の企画をする。1970年日本作曲家協議会委員長、73年日本現代音楽協会の委員長に就任。73年にはアジア作曲家連盟設立に参加。文部省審議官も委嘱されていた。1980年に逝去。ロシア正教会による葬儀が東京で行われた。

### 亭四迷 (1909年) [E4]

「浮雲」を著した二葉亭四迷(本名: 松平健次郎)は、後の東京外国語大学露語科教授として活躍した。また、ゴーゴリ、ツルゲーネフ、プロリユポフ、ゴーリキーなどの

店主の招きでウラジオストクに3回訪れ、経済や貿易に関する著書や論文を発表した。この間に国際語であったロシア語を学び、経済や貿易に関する著書や論文を発表した。この間に国際語であったロシア語を学び、経済や貿易に関する著書や論文を発表した。

